

# H24年度 第2回 高知市地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：平成25年2月14日（木）14:00～16:30

場所：高知県工業技術センター2階研修室

## 1 議事等

### （1）地域アクションプランについて

#### 1）高知市地域アクションプランの進捗状況等について

- ・第3四半期までの進捗状況を説明

#### 2）平成25年度高知市地域アクションプラン（案）について

- ・削除2件、追加4件のアクションプランの内容等について説明
- ・案について了承された

### （2）産業成長戦略について

#### 1）移住促進策の抜本強化について説明

#### 2）地域観光の推進について説明

#### 3）産業人材の育成・高知フードビジネスクリエイター人材創出事業について説明

## 【意見交換】

### <高知市地域アクションプランの進捗状況について>

・キュウリの選果ラインについて、県はものづくりの地産地消を進めているが、県外の機械が入ったのか。

→今回、入札を行ったが結果として県外企業が落札し、改修した。

・県内では機械的に作れないようなものなのか。

→技術的、またハード・ソフトも含めてかなり高度なシステムの選果場となっている。

将来に向けて研究してもらいたいと思うし、後々のランニングコスト等を考えると、県内で対応していただくことが望ましいと考えるが、現状の機械の中で入札を行った結果、指名伺いが出てくる業者が少なかった。

→春野のキュウリは大型の選果ラインが動いており、ピーク時には、100人近くの者が作業している。大型のオートメーションの機械が入っており、センサーでキュウリの並べ替えから曲がったものをはじき出す機能など、高度なものであり、高知県工業会で全体を作ることはなかなか難しいと思うが、工業会とは連携を密にして県内でできそうなこと、いろんな場面で考えていかなければいけないと思う。

・No.13 食の安心、安全に取り組んでいるところであるが、申請を出そうにもハードルが高く心配をしている。この事業を行うことにより雇用の拡大もしていきたいと考えているところである。市と普及所が連携して計画を作っているが、ハードルが高くて困っているので、産振の方から援助をいただきたい。

→課題を解決しながら進めていきたい。

よさこいは60回記念大会が予定されているが、情報交流館のことも含めて意見は。

・よさこいファンが待ち望んでいた施設だと思うので、短い期間でよさこいを語りきれることができるのかスケジュール的なことなど残念に思う。場所の広さ、開放感があるほうがよさこいには似合うと思う。今回、一丸となって成功してもらい、次に繋がるものとしてもらいたい。農産物の取組とよさこいも一緒に、継続的な支援とか外に出ていくことの支援とか、高知の宝であるよさこいを活かしていくには、今後の踊り子の育成であったり、教育で踊りが取り入れられている時代であるので高知の子は正調よさこいを踊れるようになる取組を。61回以降を見据えて活発に活動されるように、そのためにはいろいろな人を巻き込んで育てる、伸ばすことができる施設になってもらいたい。

→よさこいの歴史とか体験コーナーを設け、これから整備していく。もう一つのポイントとして、地域のはりまや橋商店街と一体となったものにしていかなければならない。交流館と地域が一体となったエリアにしていこうということで検討している。

→建物の中で30人、40人の者が踊れないので、はりまや橋商店街を踊りのフィールドとして使わせてもらう。商店街からも了解を得ている。まちなかよさこいや駅前も含めて協議中。60回に併せてサミットを考えている。全国の主催者に呼びかけて行いたい。交流館を4月末オープンさせ、オープンに合わせてサミットを行いたい。振興会と協議しながら進めていきたい。

・観光につなげるため、来てもらうには何を求めて何をしてあげたら喜んでもらえるかというニーズを考えて取り組んでももらいたいし、やっていきたいと思う。

・四方竹の取組で課題にブランド化とあるが、四方竹の命は四角と緑。黄色くなると商品価値がない。現在、山形へ5トン送って色素を還元させ流通している。高知でも研究してもらいたい。

→これまで、土佐山、普及所、工技センターで真空パックを行い、4ヶ月くらいの長期保存が可能となった。南国では山形へ送り色素を保たせ高知へ逆輸入している。県内の企業とそういう連携ができないか検討している。

→真空パックの四方竹が昨年、東京の量販店で販路ができ700パック販売。今年の秋も販売してもらえるよう営業活動行っている。

・No.19竹バイオマスについて、レクサスに装着されたハンドルのことで高知県として誇りに思う。これから更に成長が期待できる分野であるので、設備の導入含め、技術的な支援をお願いしたい。

#### <平成25年度高知市地域アクションプラン（案）について>

・食品団地として防災食の開発・製造に取り組むが、最終生産は日持ちを長く持たせるため、OEM発注している。防災食に係る設備投資が今後の課題。設備投資ができれば、地元で最終段階まで作れるようになる。また色々な企業とコラボした商品づくりもしていきたい。

・どういう機械が足りないのか。

・ミレービスケットであれば缶の製造機能。ミリメシであれば高圧釜での缶詰製造機。レトルト機は大手が導入している機械は3,000万円~5,000万円。

商品づくりには団地内の企業でコラボしているが、防災食のこれからの課題として栄養学の知識等。

→設備投資には莫大な費用がかかる。食品加工で一定の設備投資を行い、共有でその設備を使う場合、何か考えていかなければならないと思う。

・土佐山のたい肥生産施設について昨年8月に製造依頼の情報提供があり、市内の山下工業が開発を進め導入。この他にも四方竹のサイズ分けが手作業で大変であるため、本年1月に選別機の機械装置の開発依頼があった。工業会の2社から手が上がり、現在、農家から話も聞き、検討を進めている。

・弘化台のブランド化の目標で2.5億円を目指すとするが、原材料であるサバ、アジは、今何に使われているのか。こちらで使うことにより、現在使っている産業が困りはしないのか。

→原材料の確保については、県内の漁協などに打診をしている段階。全てが規格外というわけにはいかず、一定、鮮魚で出ているものも含めて対応していく。

### <成長戦略について>

・地域が主体となった自立的な観光、そのための支援をするということだったが、広域観光といえば高知県だけではなく他県と連携した観光。例えば脱藩の道であれば愛媛の町を含めた広域観光とか、東洋町であれば阿南と連携した観光とか、観光のルートと地域が一体となった自立的な観光の概念的なところがピンとこない。

→四県で連携した組織もあり、そこと連携しながら行っている。一方、地域の広域観光の推進については、今年行ったとき旅セミナーでも話しが出ていたが、旅行者にとっては市町村の行政区域内で収まることはない。地域にあるものをもっと広域的な視点で見えていき、現在7ブロックで推進しているが、そうした広域の組織の中で自分たちの地域をどう売り込んでいくか組織体制を強化していくうえで、強みを磨いていく取り組みが必要であり、県として主体的な取組を推進していく。各ブロック内で協議会が設立されてきている。そこを強化していき、次に広げて広域の連携に展開していく。まずは地域が一つになることが大事であるのでその支援に向けた強化を進めていく。

・広域という言葉とエリアという言葉のどちらがふさわしいかだが、説明を聞くとエリア観光を進めていこうと、広域観光というイメージと違うかと思うが、県内7ブロックの市町村のエリアの中での観光を推進していこうというのが主眼なのか。

→地域観光の推進という意味では、そこがまず第一の主眼となる。ただ、そこだけで観光者の視点が済むとは思っていない。県として高知県をPRしていく部分については重点的に取り組んでいく。

→エージェントが一番売りやすいのは、四国の中では琴平—高知—道後のV字型ルートなど。エージェントといかに連携していくかという大事な指摘だと思う。

### ●お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課（地域担当）

電話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール 120801@ken.pref.kochi.lg.jp